

第3学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『店で働く人と仕事』

(教科書：『小学社会3・4上』p.50～69／学習指導要領：内容（2）ア、イ）

2. 小単元の目標

地域の人々の販売について、自分たちの生活を支えていることや仕事の特徴、国内の他地域などとのかわりについて調べ、仕事に携わっている人々の工夫を考えることができる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
スーパーマーケットA店（以下スーパーA）の取り組みを通して、地域の販売の仕事に興味をもち、自分たちの生活とのかかわりについて意欲的に調べようとしている。	スーパーAの取り組みを通して、地域の販売に関する仕事をしている人々の工夫を自分たちの生活と関連づけて考え、適切に表現している。	販売者や消費者の工夫について、スーパーAの見学や家の人へのインタビュー、資料などから必要な情報を集め、読み取っている。	地域には様々な販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを、スーパーAの取り組みを通して、理解している。

4. 指導にあたって

（1）児童の実態

本学級の子どもの多くは、日常的に家の人とともに買い物に行っているが、家の人が様々な観点で買い物をする店を選んでいることや、店が客のニーズに応えるために多種多様な工夫をしていることにまで目を向けていない。そこで、子どもの意識を店の工夫に向ける手だてが必要である。

（2）教材について

本小単元では、スーパーAのN店長の営みについて取り上げ、「ぶこつ野菜」に焦点を当てていく。「ぶこつ野菜」は、農家からの出荷の段階で、形や見た目がよくないことを理由に、規格外として廃棄されていた野菜のことである。そのような規格外の野菜を、生産者と強いつながりのあるスーパーAが独自に入手し商品化している。「ぶこつ野菜」を取り上げることで、「おいしい物を安全で安く」という消費者ニーズに応える販売者の工夫に迫ることができるだけでなく、「生産者」や「消費者」という様々な立場から販売の仕事についてとらえることができる。

（3）指導上の工夫・留意点

子どもが「販売者の工夫」について様々な立場から多面的・多角的にとらえられるようにするために、「買い物調べ（つかむ）」「店の工夫調べ（調べる）」「消費者の工夫（まとめる）」の三つのユニ

ットで構成する。

5. 小単元の指導計画（総時数 14 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	自分の地域で働く人々の仕事が自分の暮らしとつながっていることに気づき、地域の人々の仕事に関心を持ち、調べる意欲を高める。	私たちが住んでいるまちには、どのような仕事をしている人がいるかな。 ○自分の地域ではどのような仕事をしている人がいるか話し合う。 ・郵便局、コンビニエンスストア、製麺工場など ○地域の店の一つを取り上げ、店の人がどのようなことを考えて売っているか話し合い、次時につなげる。	◎「まち探検」で使った校区地図、地域にある店や工場、公共施設等の写真 ◇「まち探検」や生活経験を引き出し、それらと「仕事」を結びつけるようにする。 ◆地域の人々の仕事に関心を持ち、調べようとしている。 (関・意・態／発言)
② (つかむ)	家の人の買い物の仕方に興味を持ち、買い物調べの計画を立てることができるようになる。	家の人はどこで買い物をしているのかな。 ○学級の子どもたちがよく利用する店の写真を提示し、家の人の買い物について想起する。 ・スーパーA、ドラッグストアなど ○家の人はどのようなことを考えて買い物をしているのか予想し、買い物調べ（各自の調査）につなげる。	◎店の写真、買い物調べカード ◇子どもの問題意識に沿って、買い物調べを設定する。「どの店で」「何を」「なぜ」など調べる観点を明確にし、「3日間調べよう」など日数を限定して行う。 ◆家の人の買い物の仕方に興味を持ち、買い物調べの計画を立てている。 (思・判・表／ノート，発言)
③ ④ (つかむ)	買い物調べについてまとめ、家の人は、地域の様々な店で、目的に合わせて店を選んで買い物をしていることについて考える。	買い物調べを報告し合い、買い物地図にまとめよう。 ○一人一人の買い物調べを学級全体で「買い物地図」にまとめる。 ・様々な店に買い物に行っている ・スーパーに行く人が多い。 ○表やグラフにまとめる。 ・やっぱりスーパーへ行く人が多い。 ・スーパーAへ行く人が一番多い。 ・スーパーAは、お客さんを集めるための工夫をしているのでは。 ○単元を貫く学習問題を設定する。 スーパーAで働く人たちは、どのような工夫をして仕事をしているのだろう。	◎校区地図、シール ◇地図上で、家の人が行った店にシールを貼ることで、地域の様々な店で家の人が買い物をしていることに気づかせる。 ◇「スーパーへ行く人が多い」などの発言に対し、「それは本当か」と問うことで、表やグラフにまとめる利点に気づくようにする。 ◇多くの人が買い物に行っているスーパーAに焦点化する。 ◆買い物調べについてまとめ、家の人の買い物の傾向を捉えている。(技／買い物地図)

⑤ ⑥ (調べる)	スーパーAに行く人が多い理由を予想し、スーパーAに見学に行く意欲を高める。また、見学の視点をもつことができるようにする。	どうしてスーパーAに行く人が多いのかな。 ○スーパーAに行く人が多い理由について、生活経験や買い物調べをもとに予想する。 ・値段、品ぞろえ、味、便利さなど ○スーパーAの見学の計画を立てる。 ○インタビューの仕方や見学の際に気をつけることなどを確認する。	◎スーパーAの店外や店内の写真 ◇子どもが予想しやすいよう、店内外の様子が見える写真を提示する。 ◇子どもの発言をいくつかの観点でまとめる。 ◆スーパーAに行く人が多い理由を予想している。 (思・判・表／ノート、発言)
⑦ ⑧ ⑨ (調べる)	スーパーAを見学し、店の工夫について様々な方法で調べる。また、見学の視点に沿って店の工夫をまとめ、その後の学習の見通しをもつことができるようにする。	お客さんのために、どんな工夫をしているかな。 ○スーパーAの店内を見学する。 ○見学してきたことをまとめ、店の工夫について話し合う。 ・スーパーAのN店長は、お客さんのために様々な工夫をしている。 ○はっきりしないことは疑問として残し、次時以降につなげる。	◎見学カード ◇まず、スーパーの工夫がよくわかる野菜売り場に全員を連れて行き、観察やメモの仕方を改めて確認する。その後、グループで見学させるようにする。 ◆店内の観察や店員へのインタビューを通して、客のための工夫について調べている。 (技／見学)
⑩ (調べる)	スーパーAの品物がどこから来ているかをチラシで調べ、地図にまとめることができるようにする。	スーパーAの品物はどこから来ているのかな。 ○スーパーAの品物の産地をチラシで調べ、白地図にまとめる。 ・様々な所から、様々な種類の品物を仕入れている。	◎白地図（日本と世界）、チラシ ◇国内外から品物が来ていることに気づくようなチラシを使う。 ◆スーパーAの品物の仕入れ先を調べ、地図にまとめている。 (技／白地図)
⑪ (調べる)	スーパーAが品物を分類し、きれいに並べている理由について考え、客が買いやすい工夫であることを理解する。	N店長が、品物を分類してきれいに並べているのはどうしてかな。 ○品物を種類ごとに分類し、きれいに並べている理由について話し合う。 ・品物の場所がわかりやすい。 ・見た目がきれいで買いたくなる。	◎店内地図、売り場の写真 ◇分類されていない場合と比べることで、そのよさに気づかせる。 ◆品物を分類してきれいに並べるよさについて考えている。 (思・判・表／ノート、発言)
⑫ (調べる)【本時】	スーパーAが「ぶこつ野菜」も販売している理由を考え、客のニーズに応える工夫であることを理解する。	N店長は、普通の野菜だけでなく、どうして「ぶこつ野菜」も売っているだろう。 ○スーパーAが2種のじゃがいもを販売している意味を考える。 ・客は安く野菜を買えるからよい。 ・農家も、食べてもらえてうれしい。	◎じゃがいもの実物、値段表示、「ぶこつ野菜」ののぼりのコピー ◇販売者、消費者、生産者の立場に基づいて、板書で整理する。 ◆「ぶこつ野菜」の販売の意味を複数の立場から考えている。 (思・判・表／ノート、発言)

⑬ ⑭ (まとめ)	スーパー A の工夫についてまとめるとともに、他の店との比較を通して、それぞれの店のよさに合わせた買い物の仕方があることに気づく。	スーパー A の客に対する工夫についてまとめよう。 ○スーパー A の客に対する工夫についてまとめる。 ・客の「買いたい」に応えるため、スーパー A は様々な工夫をしている。 ○他の店のよさについても考え、それぞれの店の特徴から、買い方の工夫について考える。	◎コンビニエンスストアの写真、その他の店の写真 ◇スーパー A で学んだことをもとに「他の店ではどのような工夫をしているか」と考えるようにする。 ◆スーパー A の様々な工夫は客のためであることを理解している。 (知・理／ノート，発言)
-----------------	---	---	---

6. 本時の指導（第 12 時）

（1）本時のねらい

N 店長が見た目のよくない「ぶこつ野菜」を普通の野菜とともに販売する意図について考えることを通して、値段や見た目など目的に合わせた買い物ができる消費者にとっての「よさ」と、販売者や生産者にとっても利益があるという「よさ」について理解することができる。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15	○「ぶこつ野菜」と普通のじゃがいもの 2 種を比較する。 T：比べてみて感じたことを言ってください。 C：「ぶこつ野菜」は、大きさがばらばらだ。 C：黒い部分があったり穴が空いていたりもしている。 C：お店に出せないのではないかな。 T：どうしてそう思ったのですか。 C：おいしくなさそうに見えるから。 ○「ぶこつ野菜」ののぼりに書かれている文字を読む。 C：「見かけ三流，味は一流。中身で勝負，ぶこつ野菜」 T：今日は、N 店長がどうして「ぶこつ野菜」を売っているのかについて考えましょう。 N 店長は普通の野菜だけでなく、どうして「ぶこつ野菜」も売っているのだろう。	◎2 種のじゃがいもの実物、値段表示、「ぶこつ野菜」ののぼりのコピー ◇前時までの学習の振り返りを促し、「ぶこつ野菜」の負の側面に焦点を当てる。 ◇「ぶこつ野菜」の方が袋にたくさん入って売られているが、ほぼ値段は変わらないことを実物を使って提示する。
15	○客にとって「ぶこつ野菜」が売られていることのよさについて、考えたことを発表し合う。 T：それでは、考えを聞かせてください。 C：「ぶこつ野菜」は大きさがばらばらだけど、大きいのは切って使えばいいし、小さいのはそのまま使えばいい。 C：見た目は悪いけど、味はおいしい。 C：ポテトサラダなら、たくさん使うから大きい方がいい。	◇消費者にとって「ぶこつ野菜」を買うよさに焦点化して話し合いを進める。

	C: 普通のじゃがいもは 322 円, 「ぶこつ野菜」はたくさん入って 324 円だから「ぶこつ野菜」はお得。 ○店長にとってよいことについて話し合う。 T: 店長にとってよいことはありませんか。 C: お客さんが買ってくれるとうれしい。 C: お客さんがたくさん買ってくれる。 C: 買ってもらえるともうかる。 ○普通のじゃがいもの必要性について話し合う。 T: それほど「ぶこつ野菜」がいいのなら, 普通のじゃがいもは必要ないのではないですか。 C: 土が洗い落とされていてきれいだから, すぐ料理に使える。 C: きれいに覚えておいしそう。 T: どちらかだけではだめということですか。 C: お客さんによってほしいものが違うから, 両方あった方がいい。 C: お客さんが選べるように両方置いている。	◇販売者にとって「ぶこつ野菜」を売るよさに焦点化して話し合いを進める。 ◇普通のじゃがいもの必要性を問うことで, 消費者の選択肢を増やす販売者の工夫に目を向ける。
15	○以前捨てられていた「ぶこつ野菜」が販売されることの意味について考える。 T: 「ぶこつ野菜」は, 以前は捨てられていました。 C: もったいない! C: 農家の人が一生懸命作ったのに。 C: 捨てられてしまうと, 農家の人がもうからない。 C: せっかく手間をかけて作ったのに野菜がかわいそう。だから「ぶこつ野菜」を売るんだね。	◇「ぶこつ野菜」が以前捨てられていたことを伝えることで, 生産者にとって「ぶこつ野菜」を売れることのよさに目を向ける。 ◆「販売者」だけでなく, 「消費者」「生産者」の立場からも「ぶこつ野菜」の販売の意味を具体的に考えられている。 (思・判・表／ノート)

7. 備考

<成果>

○はじめは, 消費者の立場でしか販売の仕事をとらえることができなかった子どもが, 単元の終盤では, 販売者の立場を中心に, 生産者の立場からも, とらえることができるようになった。板書やノート指導などを通して, それぞれの立場を意識させる教師の働きかけに効果があった。

<課題>

●消費者の工夫と結びつけながら, 販売者の工夫に迫るのが本単元のねらいであることを考えると, 生産者の立場を扱いすぎると, 本来学ぶべき販売者と消費者の関係性を十分にとらえられなくなる可能性がある。その加減に注意が必要である。